

エピクテトスの教育論と 現代社会の環境政策アプローチ

SATテクノロジー・ショーケース2024

■ はじめに

私は現在、愛媛大学法文学部人文社会学科4年で、人文学コースの哲学研究室に所属し、エピクテトスという後期ストア派の哲学者に纏わる研究を進めている。また私は、愛媛県地球温暖化防止推進員として活動している。これに関連させ、エピクテトスの価値観や教育論を基に現代社の環境教育並びに環境問題に発展させ、倫理的な側面から環境問題に貢献していきたいと強く考えている。エピクテトスは後期ストア派を代表する小アジアのフリギア生まれの哲学者であり、ローマの奴隷身分であった。更に当時は繁栄の時代で皆が豊かな人生を歩んでいる中で奴隷として生き続け、足も不自由であったと言われている。このような境遇であっても幸せに満ちた人生を過ごしたエピクテトスの価値観を現代社会の環境政策と関連させながら考察していく。

■ 活動内容

1. 人生談義を基にした考察

國方英二訳の人生談義を用いながらエピクテトスの考える幸福論、教育論を考察する。我々の力の及ぶ範囲(内在)と力の及ばない範囲(外在)との領域を見定め、現代社会の環境問題としての行動指針を提唱する。エピクテトスの考えとして、自分の人生の行動選択を決断するに当たって権限が及ぶ領域内で最善の行動を取ることを提唱している。

2. エピクテトスは、我々人間が権限が及ぶ範囲内のことを「権内」、その一方で権限が及ばないことを「権外」と二分化し物事の本質を見抜きだそうと打ち出した。ここで理解を具体化するために幾らかの例を示しておく。

権内→友人との待ち合わせ時間、本日の昼ご飯の献立、自分が着る服装

権外→今日の天気、宝くじの抽選結果、自分にとって自分以外の生物の思考内容

心象→人間が抱く感情、印象、心に浮かぶ像

これまでの人生において私は、これらの領域について意識したことがなく、価値観の齟齬に着目することで新しいものの見え方や行動選択の幅並びに方向性が変化してくるのではないかと強く考えている

3. 今後の展望

今後の展望として、私は、エピクテトスの考える内在、外在との区分化の考え方を活かした現代の社会の環境科学分野での思考の取り組み方を模索して最適な人と自然とのかわりあい方を見つけていきたい。特に私の関心のある第一次産業である林業ないし森林管理問題に焦点を当てて課題に取り組んでいこうと考えている。



画像引用元URL:

https://booklive.jp/product/index/title_id/1181347/vol-no/001

<https://lifehack-animation.com/epictetus-philosophy/>

代表発表者 **鳥井 優佑(とりい ゆうすけ)**
 所 属 **愛媛大学 法文学部人文社会学科 4年**
 問合せ先 **〒790-0824 愛媛県松山市道後樋又10-13**
TEL:080-1514-7986

■キーワード: (1)エピクテトス
 (2)幸福論
 (3)環境政策